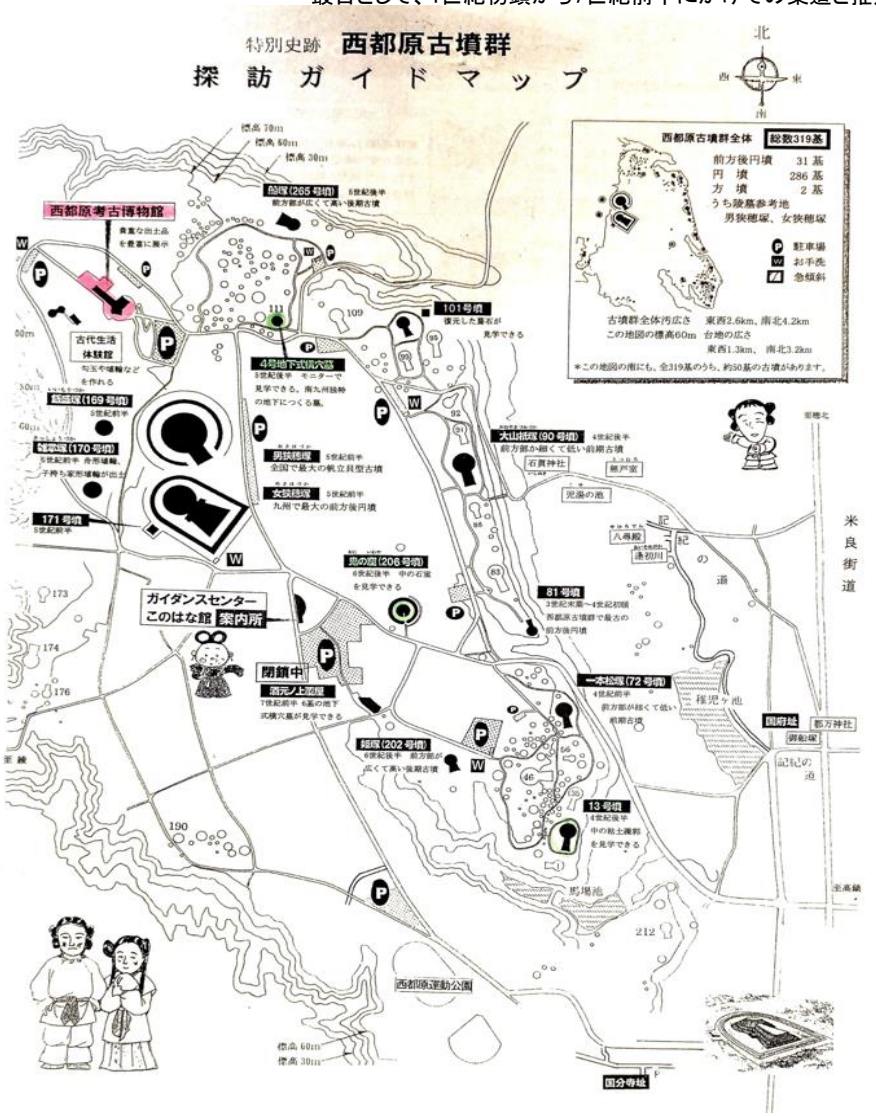
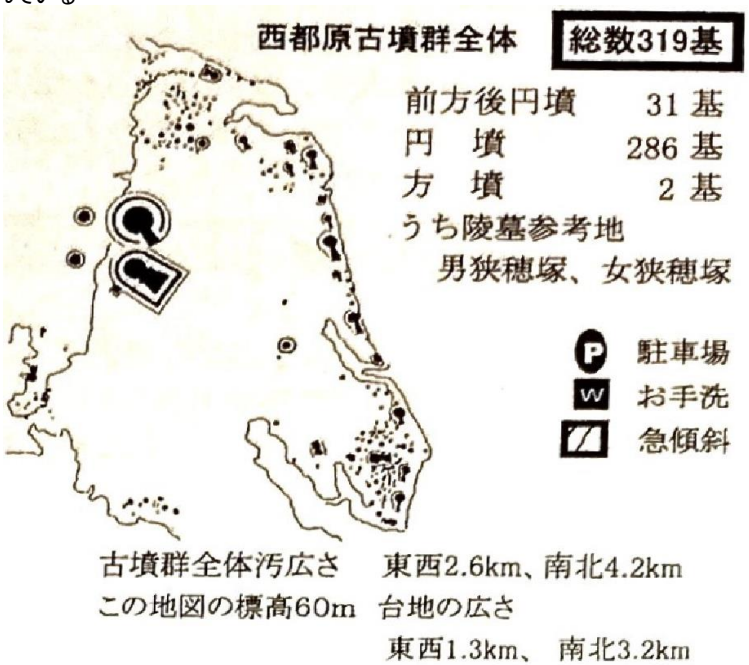
西都原古墳群（西都市）

宮崎県のほぼ中央を東流する一ツ瀬川の中流右岸に位置し、南北42キロメートル、東西26キロメートルにも及ぶ範囲に幾つかの支群を形成し、陵墓参考地の男挟穂塚・女挟穂塚を加えた319基（前方後円墳31基、方墳1基、円墳287基）が展開している/第81号墳を現状の最古として、4世紀初頭から7世紀前半にかけての築造と推定されている





INFORMATION OF THE SAITOBARU BURIAL MOUNDS
特別史跡
西都原古墳群のご案内
（昭和２７年３月２９日指定）
特別史跡西都原古墳群は、東西2.6km、南北4.2kmの広範囲に広がる全国最大規模の古墳群です。前方後円墳31基・円墳279基・方墳1基で南九州独自の地下式横穴墓も遺在しています。
古墳時代の初頭（3世紀末～4世紀初め）、複数のグループの首長（豪族）が台地縁辺を中心に築造を開始します。
5世紀前半には、それらを統一するように男狭穂塚（列島最大の帆立貝形古墳）、女狭穂塚（九州島最大の前方後円墳）が築かれます。
6世紀末、巨石を用いた横穴式石室を持つ鬼の窟古墳を最後に、西都原における首長墓の築造は終了します。
古墳群では、1912～1917（大正元～6）年に、30基が発掘調査されました。また、1966（昭和41）年からは「風土記の丘」として整備が行われ、国、県、市、地元住民の協力により、豊かな自然景観と優れた歴史的景観が守り継がれてきました。
1996（平成7）年度からは、古墳群の保存と活用を目的に調査と整備が実施されています。
The Saitobaru Tomb Group (a Special Historic Site), spreading over a wide area 2.6 km east-west by 4.2 km north-south, is among the largest-scaled groups of ancient tombs (kofun) in the nation. There are 31 keyhole-shaped mounds, 279 round and 1 square mound, and subterranean chamber tombs showing the influence on the one hand of the unique style of this tomb known for southern Kyushu, together with that of simple passage tombs.
At the beginning of the Kofun period (the end of the 3rd to start of the 4th centuries), chieftains of several powerful groups began making tombs around the periphery of this tableland.
In the first half of the 5th century, as if uniting all of these groups, the tombs Osahozuka (the largest mound in the Japanese archipelago in the shape of a scallop shell), and Mesahozuka (the largest keyhole-shaped mound in Kyushu) were built.
Over the period from 1912 to 1917, 30 tombs in this group were excavated. Then preparation of the site as a historic park ("Fudoki no oka") began in 1966, and through the cooperation of the national, prefectural, and municipal governments together with local citizens, the rich natural scenery and outstanding historic landscape have been protected.
From the 1996 fiscal year, investigations and preparations of the site for presentation to the public have been carried out to both preserve and utilize this tomb group.
◆年表 Chronological Table
3th centurics 3世紀
A.D. 300年
4th centurics 4世紀
台地縁辺の前方後円墳群
（これまでに発掘調査が行われた前方後円墳群）
13号,35号,46号,56号
72号,81号,100号,173号墳
A.D. 400年
5th centurics 5世紀
男狭穂塚・女狭穂塚
169号,170号,171号墳
4号地下式横穴墓
A.D. 500年
6th centurics 6世紀
姫塚(202号墳)
船塚(265号墳)
鬼の窟古墳(206号墳)
A.D. 600年
酒元ノ上横穴墓群
7th centurics 7世紀
前方後円墳
円墳
三角縁神獣鏡
The Bronze Mirror
13号墳出土
(重文)埴輪 船
Haniwa Clay Ship
169号墳出土：東京国立博物館所蔵
(重文)埴輪 子持家
Haniwa Clay House
169号墳出土：東京国立博物館所蔵
短 甲
Armor
4号地下式横穴墓出土

それでは「111号墳（4号地下式横穴墓）」～「100号墳」～「101号墳」～「95号墳」～「90号墳」～「83号墳」～「81号墳」と進んでみよう

「111号墳」/5世紀後半築造の円墳

video

左手に建っていた小屋？ video

建物内にある、「111号墳」の周溝内に竪穴を持ち、墳丘の中心部に向かって長大な玄室を掘り抜いている「4号地下式横穴墓」を覗くためのモニター video

この地方独特の「地下式横穴墓」などについての説明板が掲示されていた

西都原111号墳と4号地下式横穴墓

西都原111号墳は、直径約28m、高さ約5mで、第3古墳群では最大規模の円墳です。4号地下式横穴墓は、111号墳の周溝内に竪坑を持ち、墳丘の中心部に向かって長大な玄室を掘り抜いています。つまり玄室は墳丘の下に造られているのです。

西都原111号墳と4号地下式横穴墓の重なり

造られた時期

平成14年度の調査では、111号墳の周溝が全く埋まっていない段階で4号地下式横穴墓の竪坑が掘られたことが判明しました。

このことは、111号墳と4号地下式横穴墓がほぼ同時に造られたことを示しています。その時期は、副葬品などから5世紀の後半と考えられています。

地下式横穴墓と墳丘

墳丘の下に地下式横穴墓が造られる例は、西都原の他に、宮崎市下北方、国富町穴野原、えびの市小木原、鹿児島県串良町岡崎などでも確認されています。

墳丘と地下式横穴墓の関係は、次のように考えられます。

① 地下式横穴墓の墳丘として同時に造られるもの
② 既に存在する高塚古墳に、後から地下式横穴墓が寄生的に造られるもの
③ 地下式横穴墓を掘った際の廃土を目印程度に盛り上げるもの

西都原111号墳と4号地下式横穴墓の関係は①と考えられます。

墳丘中の埋葬施設

111号墳本来の形を知るため、表土（古墳築造後に積もった）を除去する調査を行いました。その際、墳丘上面で埋葬施設が見つかりました。4号地下式横穴墓が中心的な埋葬施設と考えられてきた111号墳に、墳丘中の埋葬施設が見つかったことで、それぞれの関係の検討が必要となっています。

地下式横穴墓発見の状況

4号地下式横穴墓は、1956（昭和31）年、111号墳の周囲を畑として耕作している時に、馬が地下空洞に落ち込んだことで発見されました。遺体を埋葬する部屋（玄室）の天井の一部が陥没したのです。玄室は、奥に長い妻入り型で、長さ5.5m、幅2.2mと地下式横穴墓では最大です。屋根形の天井と壁は一面に朱が塗られていました。床面中央には、白色の粘質土を貼った幅0.45m、長さ3.5mの細長い凹の床（屍床）が見られました。

副葬品として、鉄製短甲3領、直刀5振、鉄鏃1束（約50本）、珠文鏡1面、玉類（勾玉、管玉、小玉）、歩揺付金具片が出土しました。

4号地下式横穴墓は、現在まで一部の崩落箇所を除き原状のまま保存されてきました。

発見時の写真

玄室（奥壁側）

玄室（入口側）

短甲出土状況

横矧板鋲留短甲

横矧板鋲留短甲

横矧板革綴短甲

珠文鏡

それでは墳丘に登ってみよう

墳頂部に存在した3基の埋葬施設が表示されている

video

西都原１１１号墳の埋葬施設

111 号墳の墳丘南側裾部には、地下式横穴墓（４号）が存在します。昭和 31（1956）年に発見され奥行き５ｍを超える長大な玄室（遺体を埋葬する部屋）を墳丘中心部に向けています。　111 号墳に伴う埋葬施設は、この地下式横穴墓のみと考えられていました。

平成 14（2002）年から着手した墳丘調査の結果、墳頂部に３基の埋葬施設が存在することが確認されました。いずれも木棺直葬で、３基は重なり合って検出されたことから、構築時期が異なるものと判断されました。

最も早く構築された第１主体部からは、挂甲（1)、ガラス小玉（多）、須恵器壺（1)、土師器椀（1）が出土しました。構築時期は、４号地下式横穴墓よりもやや新しく６世紀初頭と考えられます。

The Burials of Mound #111

On the southern side of Mound #111, there is an underground chamber designated as chamber #4. This subterranean chamber was first discovered in 1956. The chamber extends 5 meters and was tunneled and constructed beneath the mound center. Initially it was believed that there were no other burials located at Mound #111 other than the underground chamber #4.

As a result of excavations that were started in 2002, we discovered three additional shallow burials located on the top of the mound. These three burials are overlapping on top of each other, and probably indicates that they were constructed at different times.

Metal armor, beads, ceramic earthenware pots called "Sueki", and unglazed earthenware bowls called "Hajiki" were excavated from the earliest burials at the mound, which is believed to have been constructed at the beginning of the 6th century AD.

背後の墳丘斜面を見たところ

ここだけ崩れかけているのか？、葺石らしきものも見てとれた

墳頂で、北方向を見たところ/正面前方付近に「船塚(265号墳)」が所在する

「100号墳」/4世紀前半～中頃築造の前方後円墳 video

100号墳 Mound No.100

～古墳時代前期の前方後円墳～

～ Keyhole-shaped tumulus, which was built in the early Kofun Period ～

1998~2000（平成 10~12）年度に墳丘測量、地中レーダー探査、墳丘全面の発掘調査を実施しました。

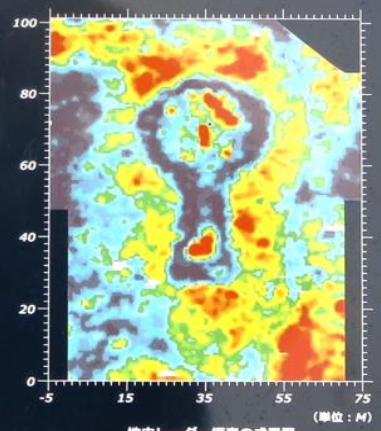
墳丘の規模は、墳長 57.4m、後円部径 32.4m、前方部長 26m、同前面幅 17.3mで、後円部は３段、前方部は２段に造られています。前方部はくびれ部側が非常に細く、先端部が緩やかに広がっており、墳丘表面は葺石で覆われています。後円部墳頂には、円形の墓壙（直径約 11.5m）があることがわかっています。後円部墳頂付近から出土した土師器の特徴から、４世紀前半～中頃に築造されたと推定されます。

葺石を露出した整備の状況

■地中レーダー探査

発掘調査に先立ち、墳丘とその周辺の地中レーダー探査を行いました。その結果、後円部中央付近では、約 1.8mの深さに長さ 5~6m、幅 2~3m程度の強い反応が確認されており、埋葬主体部と考えられます。

また、墳丘に沿うような形で、周辺とは異なる強い反応がありました。これは、本来の周堀の形状を示している可能性があります。



地中レーダー探査の成果図

■整備

発掘調査等の成果に基づき、2001~2002（平成 13~14）年度に実物の葺石を露出した形での整備を実施しました。墳丘や周堀は保護土で覆った上で硬化処理し、葺石は欠落部分の修復を行わず、発掘調査当時のままの姿としました。

当初の整備から 10 年以上が経過し、見学者に古墳の本来の姿を理解してもらうという所期の目的は達成されたと考えられるため、2014~2015（平成 26~27）年度に古墳の保存と継承という観点から、盛土と芝貼りによる再整備を実施しました。今回の整備では、墳丘を覆った盛土で段築成を表現しており、築造当時の形状を理解できるようになっています。

From 1998 to 2000, the tumulus survey, underground radar survey and surface excavation were carried out.

The total length of the tumulus is 57.4 meters. Its front part has a two-stage construction that is 26 meters in length and 17.3 meters in width. The round part is 32.4 meters in diameter and has a three-stage construction. From the round part the beginning of the front part is extremely narrow and gradually widens until the end. Its surface is covered with paving stones. A burial pit whose diameter is approximately 11.5 meters has been found on top of the round part of the tumulus. The tumulus is estimated to have been built between the early to middle years of 4th century, judged by the characteristics of the Haji wares that were excavated.

■Before the initial excavation, an underground radar survey was conducted.

The survey detected a strong reflection approximately 1.8 meters below around the circular part of the tumulus that is 5-6 meters long and 2-3 meters wide. This reflection is thought to have been used as a main burial spot.

The radar also detected another reflection, such as along the tumulus and this may indicate the original shape of the surrounding moat.

■Based on the excavation results, the preparation of the tumulus was performed while leaving the original paving stones on its surface between 2001 and 2002.

The tumulus and the surrounding moat have been covered by soil and then a hardening treatment was applied. Some missing parts of the paving stones have been remained in order to preserve the original condition of the tumulus.

The expected purpose, which is to show the original condition of the tumulus to visitors had been attained after 10 years from the initial preparation of the site. Therefore, the tumulus has been mounded with a clear stage structure and lawns were planted on its surface as a further maintenance to preserve and succeed the site. This aims to present the original features of the tumulus as it was in ancient times.

反対側から見たところ

video

「101号墳」/5世紀前半築造の方墳

女狭穂塚の陪塚とされる「171号墳」の相似形で、埴輪の規格も似ていると云う

101 号墳
Mound No.101

101 号墳は、2015・2017（平成 27・29）年度に実施した発掘調査によって、女狭穂塚の陪塚とされる 171 号墳と同じ方墳（平面形が四角形の古墳）であることが分かりました。一辺は約 15mで、171 号墳のほぼ 1／2 の大きさです。出土した埴輪の種類や埴輪を立てた位置も 171 号墳の状況とよく似ているので、101号墳は女狭穂塚や171号墳と密接な関係にあり、同じ時期（5 世紀前半）に築造されたと考えられます。

※陪塚・・・大型古墳に付随するように造られた小型古墳

Mound No.101 is one of two square burial mounds in the Saitobaru Burial Mounds.
The excavations in 2015 and 2017 revealed that the mound has had the haniwa clay sculptures very similar in variation and arrangement to those found in mound No.171. These two mounds were considered to have had a close relation when they were built in the early 5th century.

南東側隅角部における短甲形埴輪出土状況
Shards of Haniwa Armor Breastplate Clay Sculpture Found at the South-Eastern Corner of Mound No.101.

短甲形埴輪
Haniwa Armor Breastplate Clay Sculpture

101 号墳復元図
Restored Mound No.101

葺石や埴輪も復元されている

周堀の様子も見てとれる

video

復元された葺石の様子

video

墳頂に何やら立っている？

video

「古墳第百一號」と記されていた

「95号墳」/4世紀中頃築造の前方後円墳 video

右手から見たところ

「99号墳」の前方部脇でパノラマで見たところ

video

「大山祇塚（90号墳）」/4世紀代の築造とされる前方後円墳 video

女狭穂塚が木花開邪姫の墓、90号墳は木花開邪姫の父である大山祇命の墓と伝えられているらしい

右手から見たところ

video

さて、第二古墳群と記された看板の向こうに「83号墳」が見える

video

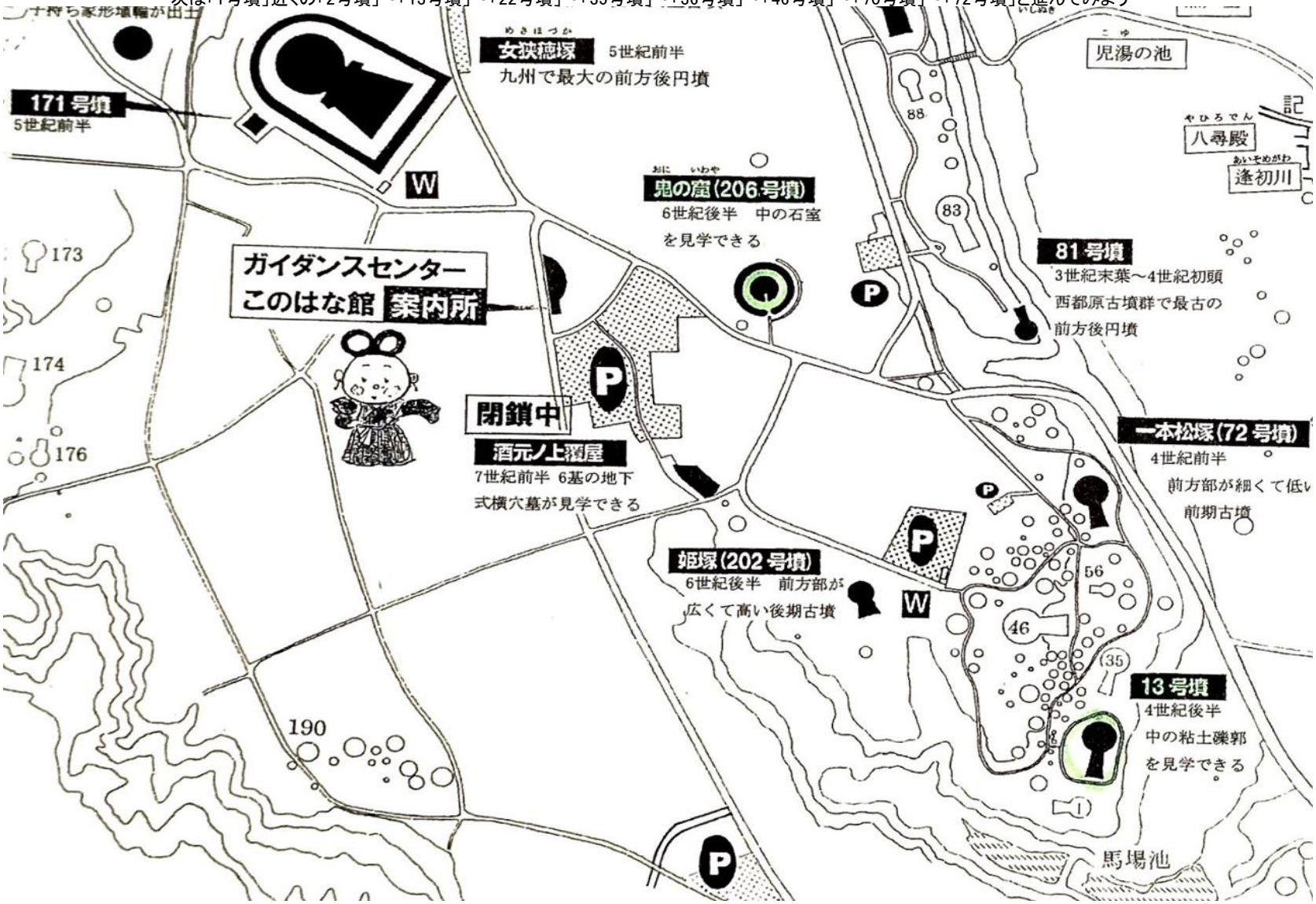
「83号墳」/4世紀代築造の前方後円墳

右手から見たところ

video

「81号墳」/3世紀末葉～4世紀初頭築造の前方後円墳/西都原古墳群で現状の最古の前方後円墳 video

次は「1号墳」近くの「2号墳」～「13号墳」～「22号墳」～「35号墳」～「36号墳」～「46号墳」～「70号墳」～「72号墳」と進んでみよう



「第一古墳群」と記された看板

ここにも古墳が目白押し！

video

説明板がある

西都原古墳群 第１支群

The First Group Saitobaru Ancient Burial Mounds

西都原古墳群第１支群は、西都原台地の南東端に位置し、91 基の古墳が所在しています。前方後円墳が７基、円墳が 84 基あり、東西で２つの群に分かれる可能性があります。

1912～ 1917 年に日本で最初の本格的な学術調査が西都原古墳群で実施され、その対象古墳の多くが第１支群に分布します。

宮崎県教育委員会では、1997～2014 年に発掘調査を実施し、西都原古墳群を代表する前期古墳の１つである 13 号墳（４世紀後半）、第１支群で最大規模の前方後円墳で周溝内に島状施設を持つ 46 号墳（４世紀末）、西都原古墳群最後の前方後円墳の１つである 202 号墳（通称：姫塚、６世紀後半）等の復元整備を実施しました。また、284 号墳は、弥生時代終末期の墳墓である可能性が高いと判明しました。

Explanation of the 1st group of burial mounds
There are 91 burial mounds located in the southeastern part of the Saitobaru plateau.
Out of the 91 burial mounds, 84 are round burial mounds and 7 are keyhole shaped burial mounds. Each burial mounds has received a number, for example #13 was constructed during the later half of the 4th Century, where as #46 and #202(Himezuka) were built around the end of the 4th C, and the later half of the 6th C.

1912～1917 年に発掘調査された古墳
2 号墳・13 号墳・22 号墳・27 号墳・35 号墳・36 号墳・51 号墳・56 号墳・57 号墳・70 号墳・71 号墳・72 号墳・73 号墳・202 号墳・273 号墳・274 号墳・283 号墳・284 号墳

1997～2014 年に発掘調査・整備された古墳
4 号墳・5 号墳・6 号墳・10 号墳・12 号墳・13 号墳・16 号墳・46 号墳・47 号墳・201 号墳・202 号墳・203 号墳・284 号墳

List of the burial mounds that were excavated during the Taisyo period.(1912-1917)
#2,13,22,27,35,36,51,56,57,70,71,72,73,202,273,274,283,284

List of the burial mounds that were excavated during the Heisei period.(1997-2014)
#4,5,6,10,12.13,16,46,47,201,202,203,284

そこから「13号墳」が見える

こちらは「2号墳」のようだ

前方に見えるのは「姫塚（202号墳）」/6世紀後半築造の前方後円墳 video

さて、これが「2号墳」/円墳

すぐ傍に前方後円墳の「1号墳」がある

2号墳 Mound No.2

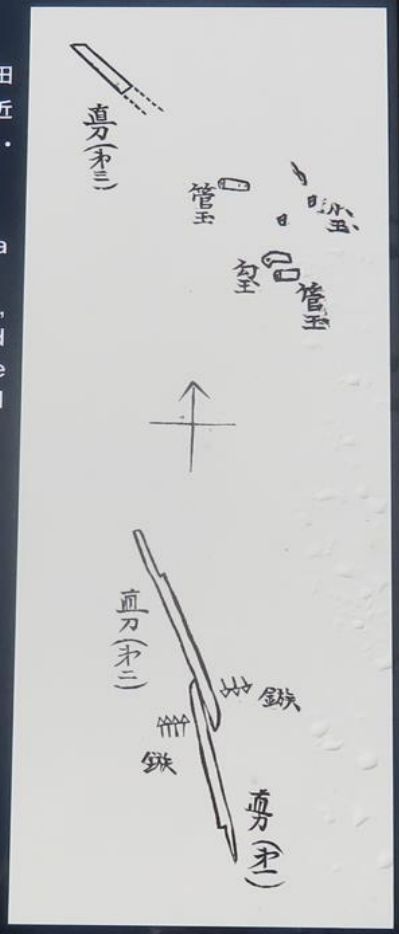
２号墳は、墳径 21m・墳高３mの円墳です。

1915(大正４)年７月 27 日～８月３日の間に柴田常惠により発掘調査されました。その結果、墳裾付近で葺石が検出されたほか、墳頂より直刀・刀子・鉄鏃・勾玉・管玉・小玉が出土しました。

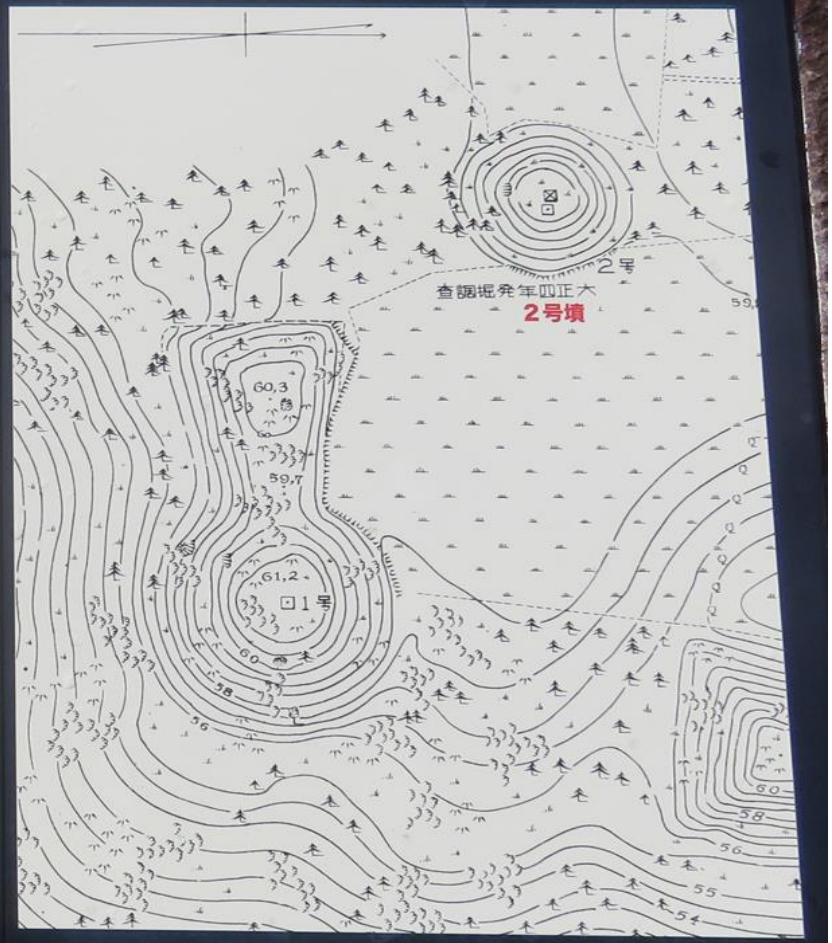
Mound No.2 is a round tumulus having a diameter of 21m and a height of 3m. Swords and small knives, arrowheads, beads were discovered in Taisho period excavations from July 27 – Aug 3, 1915. The excavation revealed that the mound had paving stones.

調査に関わった人：
柴田 常惠 （しばた じょうえ）
1877(明治 10)～1957(昭和 32)年
東京帝国大学助手（調査当時 38 歳）
1912・1915(大正元・４）年の西都原調査へ参加
黎明期の文化財保護行政にあたる

Joue Shibata
Assistant, Tokyo University
Participated in the surveys 1912, 1915
Pioneer of administration for cultural assets protection



２号墳墳頂において、直刀・鉄鏃・勾玉等が出土
The excavated arrangement found for the beads, swords, and arrowheads



原田仁（宮崎県出身）が作成した古墳測量図
Tumulus survey map, made by Hitoshi Harada (from Miyazaki)

「13号墳」/4世紀後半築造の前方後円墳/手前に模型が展示されている

video

築造当時の姿（13号墳の模型）
Model of Kofun #13

今から 1,600 年以上前に築造された１３号墳は、斜面や平坦面の全てが葺石で覆われていたことが明らかになりました。

発掘調査の終了した１３号墳は、墳丘保護のために全面を土で覆い、形状のみを復元し、表面には芝を貼っています。

そのため、築造当時の姿を理解していただくため、１／２０の大きさで模型を設置しました。葺石の中に見られる目地状の直線的な石の配列は、築造作業の基準や区割りであったものと考えられます。

作られた当時の本来の姿は、巨大な人工構造物といった印象が強いものでした。

Burial mound #13 was built 1600 years ago and had a surface that was once entirely convered with stones. After finishing the excavation and studies into the burial mound, the exposed surface was covered by a layer of turf to reconstruct the original shape of the weathered burial mound. The outside turf layer is also useful in that it protects the original burial mound surface. A 1:20 scale model of the excavated burial mound #13 can be viewed next to the present day reconstructed burial. The surface stones on the burial show several linear arrangements within the entire stone matrix covering the burial. These linear stone arrangements may have been laid first onto the burial surface to designate or to divide specific areas on the mound which were then subsequently filled in with additional stones.

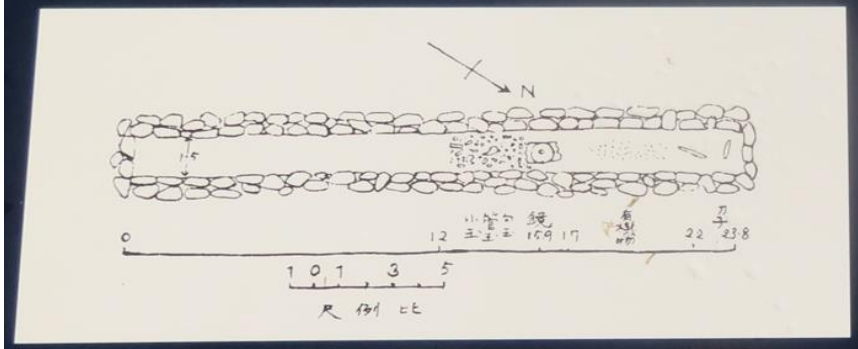
The impression of the burial construction was so magnificent that the ancient visitor to the site must have felt that the mounds were artificial and not naturally occurring structures.

13 号墳 Mound No.13

13 号墳は、４世紀後半に築造された前方後円墳です。

1916(大正５) 年１月４日～同７日、内藤虎次郎・今西龍により発掘調査されました。その結果、後円部において粘土槨が検出され、三角縁神獣鏡１面、ヒスイ製勾玉２点、碧玉製管玉40点余り、ガラス製小玉110点余り、鉄剣１点、刀子１点、棺材と思われる木片等が出土しました。

宮崎県教育委員会は、1995 ～ 1997(平成７～９) 年に発掘調査を実施し、墳丘は平坦面を含む全面が葺石で覆われた三段築成であることや、墳丘上に二重口縁壷が置かれていたことが明らかになりました。



遺物の出土状況　The excavation

- 墳　　長 total length : 79.4 m
- 後円部径 diameter of the round portion : 43.2 m
- 後円部高 height of the round portion : 7.2 m
- 前方部長 length of the square part : 38.6 m
- 前方部幅 width of the square part : 25 m

Mound No.13 was constructed in second half of the 4th century AD.
Mound No.13 is a keyhole-shaped burial mound having a length of 79.4m and a height of 7.2m. A bronze mirror, accessories (made of jade, jasper, glass) and arms were discovered by excavation in 1916.
The Miyazaki Prefecture Board of Education had conducted the excavation in 1995-1997. The excavation revealed that the mound had a three-tiered construction with paving stones. In addition, there were some ceramic jars found on the mound.

調査に関わった人：
内藤虎次郎
(ないとう とらじろう)
1866(慶応２) ～ 1934(昭和９) 年
京都帝国大学教授（調査時 50 歳）
1916（大正５）年の調査へ参加
中国近世史・漢文作家・書道家

Toraziro Naito (1866-1934)
Professor Kyoto University
Participated in the survey 1916
Early Modern History of China, Calligrapher

今西　龍
(いまにし りゅう)
1875(明治８) ～ 1932(昭和７) 年
京都帝国大学助教授（調査時 41 歳）
1912・1914・1916
(大正元・３・５）年の調査へ参加
朝鮮古代史の研究の開拓者

Ryu Imanishi (1875-1932)
Lecturer Kyoto University
Participated in the survey 1912, 1914, 1916
Pioneer of research on Korean ancient history

石室内に入れるようだ！

video

粘土槨 video

左手から見たところ

video

「22号墳」/円墳

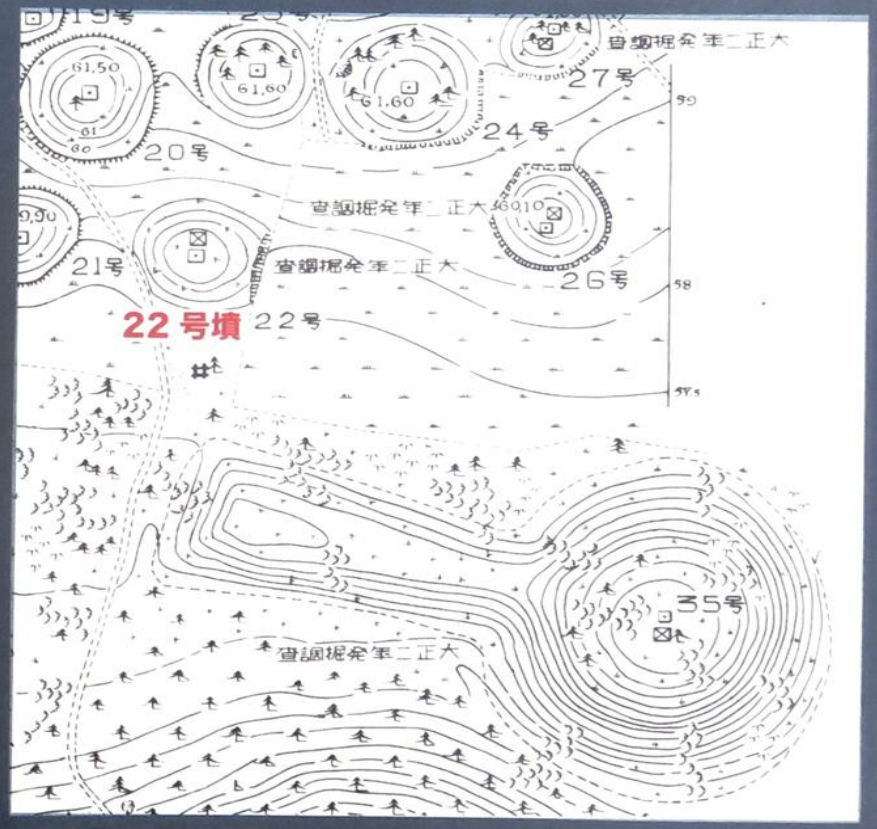
「35号墳」の陪塚ということのようだ

22号墳 Mound No.22

22号墳は、墳径16m、墳高2.5mの円墳です。

1913(大正2)年4月1日～同11日の間に、鳥居龍蔵により、35号墳の陪塚という想定のもと発掘調査され、鉄剣・鉄鏃・須恵器坏・土師器椀が出土しました。

Mound No.22 is a round tumulus having a diameter of 16m and a height of 2.5m.
Swords and arrowheads and earthen pottery were discovered by excavation in 1913.



原田仁(宮崎県出身)が作成した古墳測量図
Tumulus survey map, made by Hitoshi Harada (from Miyazaki)

「35号墳」/4世紀代築造の前方後円墳

video

３５号墳 Mound No.３５

35 号墳は、４世紀に築造された柄鏡形の前方後円墳です。

1913（大正２）年４月１日～同 11 日の間に、鳥居龍蔵により発掘調査されました。その結果、後円部墳頂において埋葬施設である粘土槨が発見され、直刀・鉄剣・方格規矩鏡・勾玉・管玉・土師器等が出土しました。

- 墳　　長 total length : 70m
- 後円部径 diameter of the round portion : 38m
- 後円部高 height of the round portion : 6.7m

原田仁（宮崎県出身）が作成した古墳測量図
Tumulus survey map, made by Hitoshi Harada (from Miyazaki)

1913 年調査時の 35 号墳スケッチ
The sketch of the Mound No.35 in 1913

平安時代に古墳を再利用して頂上に納められた経筒
A pipe (put scripture of Buddhism), kept at the top of the burial mound and used again in the Heian era

出土した鏡のスケッチ
The sketch of mirror excavated in 1913

調査に関わった人：
鳥居　龍蔵　（とりい りゅうぞう）
1870（明治 3）～ 1953（昭和 28）年
東京帝国大学講師（調査当時 43 歳）
1913（大正２）年の調査へ参加
中国・朝鮮半島などで人類学、考古学の調査を行う

Ryuzo Torii (1870-1953)
Lecturer Tokyo University
Participated in the survey 1913
Specialized the investigation of anthropology and archaeology in China and the Korean peninsula

「36号墳」/円墳

video

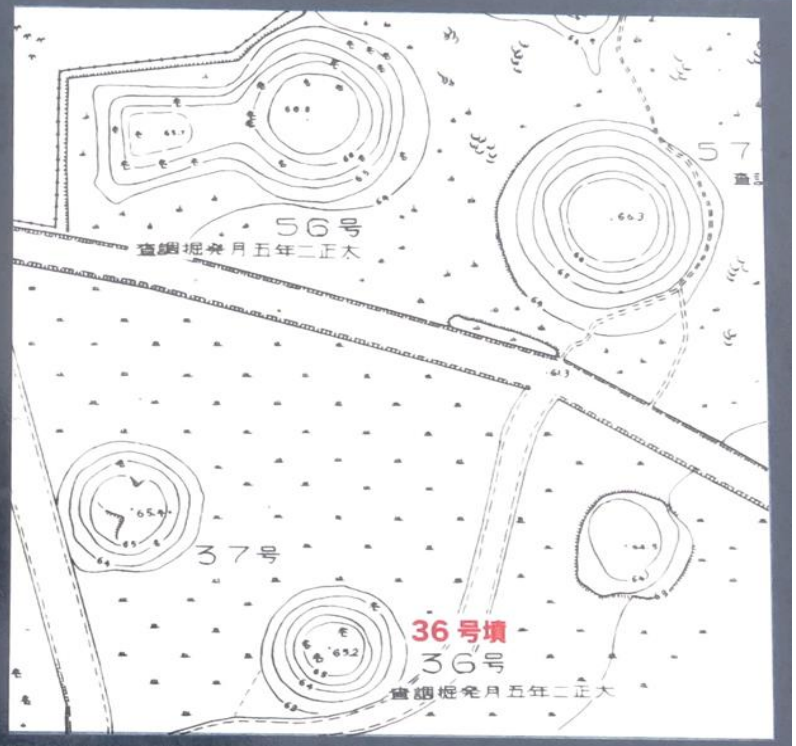
これも「35号墳」の陪塚ということのようだ

３６号墳 Mound No.３６

36 号墳は、墳径 13m、墳高 2.2m の円墳です。

1913（大正２）年４月１日～同 11 日の間に、鳥居龍蔵により、35 号墳の陪塚という想定のもと発掘調査され、鉄斧・須恵器坏等が発見されました。

Mound No.36 is a round tumulus having a diameter of 13m and a height of 2.2m. An axe and Sueki (earthen pottery) were discovered by excavation in 1913.



原田仁（宮崎県出身）が作成した古墳測量図
Tumulus survey map, made by Hitoshi Harada (from Miyazaki)

「46号墳」/4世紀末築造の前方後円墳

video

４６号墳の復元

４６号墳の復元では、三段築成である墳丘のテラス面と、地中レーダー探査により判明した周溝の形状を表現しました。また、本来の墳丘は全面が葺石に覆われていましたが、整備では、二重に廻る基底石のみを配置しました。

We restored the three-tiered construction of Mound No. 46 and the surrounding burial moat which were revealed using ground penetrating radar. The original mound was covered with paving stones, but we restored only the double base stones surrounding the lowest terrace.

地中レーダーの成果と周溝の復元
The results of the radar survey and restorations of the burial moat.

「70号墳」/円墳

video

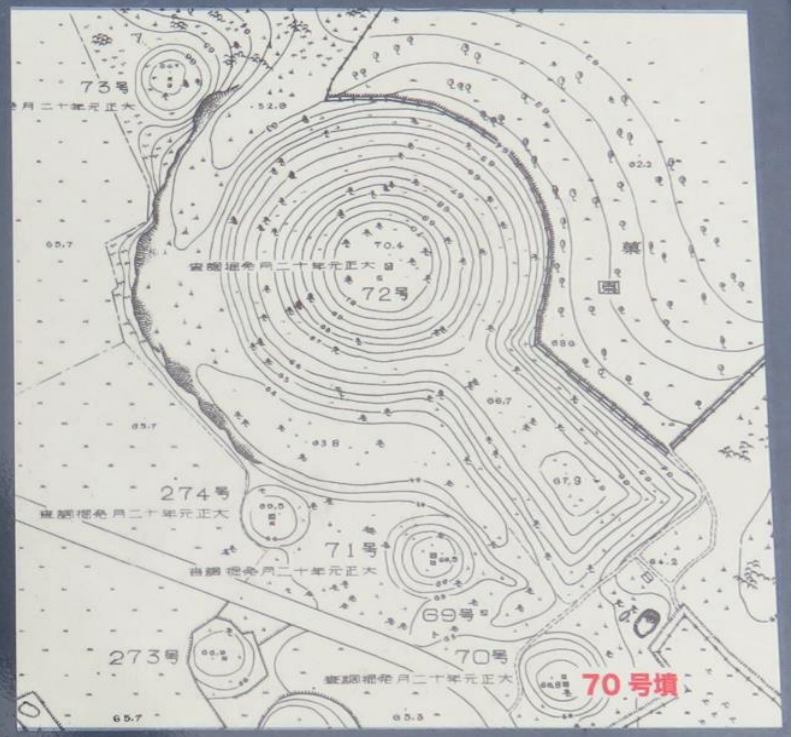
「72号墳」の陪塚ということのようだ

70 号墳 Mound No.70

70 号墳は、72 号墳の南西に近接する、墳径 12.6m、墳高 1.9m の円墳です。

1913(大正2)年1月3日、黒板勝美・今西龍・三浦敏により、72 号墳の陪塚という想定のもと発掘調査され、礫床が検出されました。遺物は出土していません。

Mound No.70 is a round tumulus having a diameter of 12.6m and a height of 1.9m.
No relics were discovered by excavation in 1913.



原田仁(宮崎県出身)が作成した古墳測量図
Tumulus survey map, made by Hitoshi Harada (from Miyazaki)

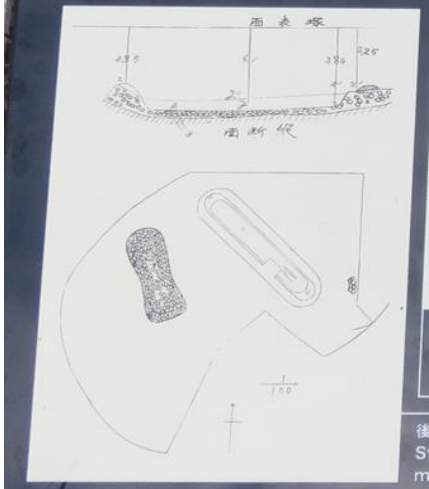
「一本松塚（72号墳）」/4世紀代築造の前方後円墳

72号墳 Mound No.72

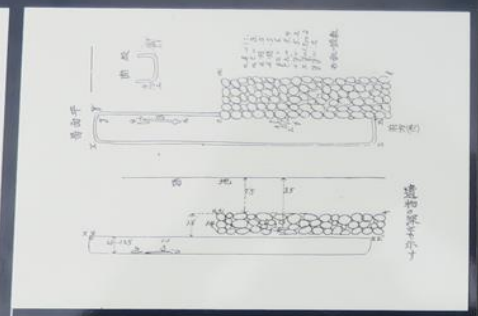
72 号墳は、4世紀に築造された、前方後円墳です。葺石を持ち、西側には周溝が半周します。

1912(大正元)年 12 月 25 日～ 1913(大正2)年1月6日、今西龍・黒板勝美・三浦敏・濱田耕作・柴田常惠により発掘調査されました。その結果、後円部の磯床から直刀、粘土槨から直刀・剣・方格規矩鏡が、そして槨外から土器が出土しました。また、前方部の磯床から剣・鉄鏃が、粘土槨から直刀・鉄鏃が発見されました。

- 墳　　長 total length : 79 m
- 後円部径 diameter of the round portion : 50m
- 後円部高 height of the round portion : 7.4 m
- 前方部高 length of the square part : 4.6 m



後円部の埋葬施設の構造
Structure of the burial in the square part of the mound



前方部の埋葬施設の構造
Structure of the burial in the round portion of the mound

発掘された粘土槨を調査する黒板勝美
Katsumi Kuroita surveying the excavated coffin

粘土槨から出土した鏡
Mirror found from the coffin

前方部斜面の葺石の状況
The square part of the mound is shown adorned paving stones

別の角度から見た「一本松塚（72号墳）」 video

さて、次は「鬼の窟古墳(206号墳)」～「男狭穂塚」～「女狭穂塚」～「171号墳」と進んでみよう

前方が「鬼の窟古墳（206号墳）」/6世紀後半～7世紀前半築造の円墳/説明板が並んでいる video

INFORMATION OF THE SAITOBARU BURIAL MOUNDS
特別史跡
西都原古墳群のご案内
（昭和２７年３月２９日指定）
特別史跡西都原古墳群は、東西2.6km、南北4.2kmの広範囲に広がる全国最大規模の古墳群です。前方後円墳31基・円墳279基・方墳1基で南九州独自の地下式横穴墓も混在しています。
古墳時代の初頭（3世紀末～4世紀初め）、複数のグループの首長（豪族）が台地縁辺を中心に築造を開始します。
5世紀前半には、それらを統一するように男狭穂塚（列島最大の帆立貝形古墳）、女狭穂塚（九州島最大の前方後円墳）が築かれます。
6世紀末、自石を用いた横穴式石室を持つ鬼の窟古墳を最後に、西都原における首長墓の築造は終了します。
古墳群では、1912～1917（大正元～6）年に、30基が発掘調査されました。また、1966（昭和41）年からは「風土記の丘」として整備が行われ、国、県、市、地元住民の協力により、豊かな自然景観と優れた歴史的景観が守り継がれてきました。
1996（平成7）年度からは、古墳群の保存と活用を目的に調査と整備が実施されています。
The Saitobaru Tomb Group (a Special Historic Site), spreading over a wide area 2.6 km east-west by 4.2 km north-south, is among the largest-scaled groups of ancient tombs (kofun) in the nation. There are 31 keyhole-shaped mounds, 279 round and 1 square mound, and subterranean chamber tombs showing the influence on the one hand of the unique style of this tomb known for southern Kyushu, together with that of simple passage tombs.
At the beginning of the Kofun period (the end of the 3rd to start of the 4th centuries), chieftains of several powerful groups began making tombs around the periphery of this tableland.
In the first half of the 5th century, as if uniting all of these groups, the tombs Osahozuka (the largest mound in the Japanese archipelago in the shape of a scallop shell), and Mesahozuka (the largest keyhole-shaped mound in Kyushu) were built.
Over the period from 1912 to 1917, 30 tombs in this group were excavated. Then preparation of the site as a historic park ("Fudoki no oka") began in 1966, and through the cooperation of the national, prefectural, and municipal governments together with local citizens, the rich natural scenery and outstanding historic landscape have been protected.
From the 1996 fiscal year, investigations and preparations of the site for presentation to the public have been carried out to both preserve and utilize this tomb group.
◆年表 Chronological Table
3th centurics 3世紀
A.D. 300年
4th centurics 4世紀
台地縁辺の前方後円墳群（これまでに発掘調査が行われた前方後円墳群）13号.35号.46号.56号 72号.81号.100号.173号墳
A.D. 400年
5th centurics 5世紀
男狭穂塚・女狭穂塚 169号.170号.171号墳
4号地下式横穴墓
A.D. 500年
6th centurics 6世紀
姫塚(202号墳)
船塚(265号墳)
鬼の窟古墳(206号墳)
A.D. 600年
酒元ノ上横穴墓群
7th centurics 7世紀
前方後円墳
円墳
三角縁神獣鏡
The Bronze Mirror
13号墳出土
(重文)埴輪 船
Haniwa Clay Ship
169号墳出土：東京国立博物館所蔵
(重文)埴輪 子持家
Haniwa Clay House
169号墳出土：東京国立博物館所蔵
短甲
Armor
4号地下式横穴墓出土

古墳の名前は、木花開邪姫（コノハナサクヤヒメ）に恋した鬼が、一晩のうちに窟（石室）を作ったという伝説に由来しているらしい

鬼の窟古墳

Oni-no-Iwaya Tumulus

6 世紀後半～ 7 世紀前半

鬼の窟古墳（206 号墳）は、外堤と二重の周溝を有する直径37m、高さ 7.3mの円墳で、二段築成の墳丘には葺石はありません。

古墳群で唯一の開口した横穴式石室を持ち、巨石を積み上げた石室や羨道からは、木棺に使用されたと考えられる鉄釘や、馬具、須恵器（スエキ）、土師器（ハジキ）などが出土し、３回以上の埋葬が行われたと考えられます。

鬼の窟古墳は、西都原古墳群の最後の首長墓と考えられます。

古墳の名前は、木花開邪姫（コノハナサクヤヒメ）に恋した鬼が、一晩のうちに窟（石室）を作ったという伝説に由来しています。

Oni-no-Iwaya Tumulus, (burial #206), is 37 meters in diameter and has a height of 7.3 meters. This burial mound has two surrounding moats and is unusual in that it does not have any adorning stones on its surface.

The burial currently has an open stone chamber. Inside the stone chamber iron nails which may have come from a wood coffin were discovered during excavations. Several ironworks for horse riding were also found in the chamber in addition to ceramic shards. This stone chamber is thought to have been used to intern three different people at different times.

The last grave entombed in Oni- no-Iwaya is believed to be the grave of the local ruler of the Saitobaru Ancient Burial Mounds.

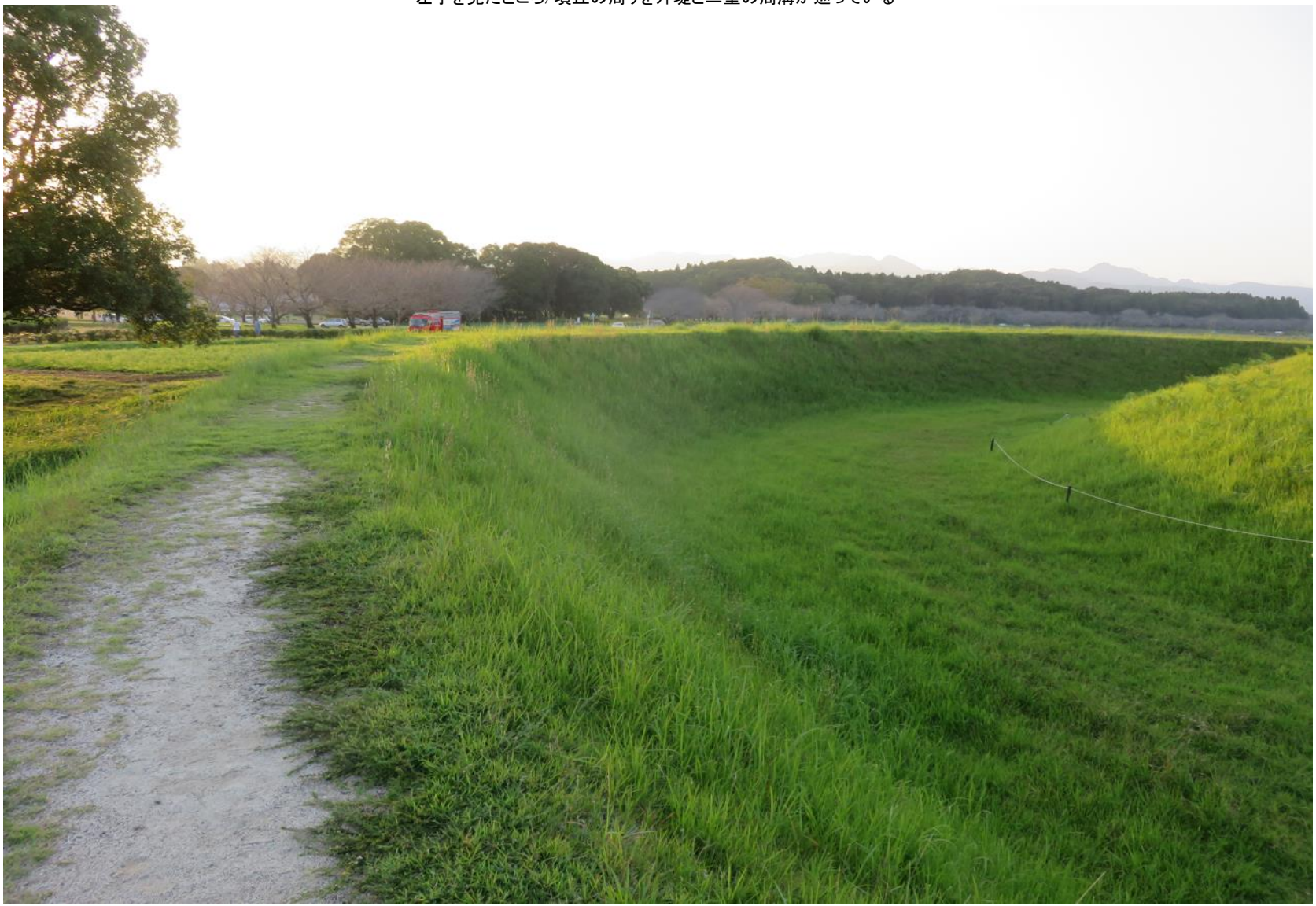
The name of this tumulus comes from folklore and it talks of the ogre that loved Princess Konohana Sakuya. Based on folklore tale, the ogre made the stone chamber for his lost love in a one night.

「史蹟 西都原古墳群」と刻まれた標柱が立っている/階段で登らなければならない部分は外堤

video

外堤の上から見た墳丘/横穴式石室が開口している/西都原古墳群では横穴式石室を有する唯一の古墳で、最後の首長の墓とされている video

左手を見たところ/墳丘の周りを外堤と二重の周溝が巡っている



同じく、右手を見たところ

video

それでは内側の周溝に下りてみよう

video

横穴式石室入口の両サイドに説明板がある

video

左手を見たところ

同じく、右手を見たところ

現在の石室は解体整備された復元ということのようだ

石室の復元
Recovery of the Stone Chamber

鬼の窟古墳の横穴式石室は、羨道と玄室に分かれています。巨石を用いて４～５段に積み上げた壁面を緩やかに内側に傾け、天井石で覆っています。

石室の入り口には、以前はクスノキが生えていましたが、木の成長によって拡がった根により、石室が裏側から圧迫され崩壊の危険が高まっていました。

そのため、石室の崩壊を防ぎ、古墳と石室を本来の形状に復元することを目的とした整備工事を実施しました。

石室の石をクレーンを使って一つずつ吊り上げながら解体し、クスノキの根を除去しました。その後、図面や写真を基に石を積み直し、石室と墳丘を築造当時の姿に復元しました。

石室の床面は、保護のために 20cm 程度の盛土を施し、実物と同じような形状の河原石を敷いて復元しました。

The stone chamber at the Oni-no-Iwaya tumulus has a tunnel entrance leading into a stone room. Four to five layers of extremely large stones were used to make the ceiling.
The entrance to the chamber was recently covered by large trees in which the tree roots were slowly destroying the integrity of the chamber walls.
For this reason the tree roots needed to be removed before the chamber walls and ceiling could also be reconstructed for safety.
Each of the large ceiling stones were individually repositioned by a hydraulic crane during which time the tree roots could also be extricated.
In order to protect the original chamber floor, 20 centimeters of top soil were added along with small stones to make a resilient surface for the frequent visitors to the site.

近くの千畑古墳の横穴式石室と設計企画や築造技法が類似していると記されている

南九州最大級の横穴式石室

The Largest Horizontal Stone Chamber in Southern Kyusyu

横穴式石室の展開画像 The development view of the stone chamber

巨石を用いた畿内型の横穴式石室であり、石室の全長 12.4m、玄室は奥幅 1.75m、前幅 2.45m、長さ 4.90m、高さ 2.15mです。

主要な石材は砂岩の塊石で、玄室奥壁最下段に使用された石材は露出している部分だけでも幅 2.1m、高さ 1.0mという大きさです。

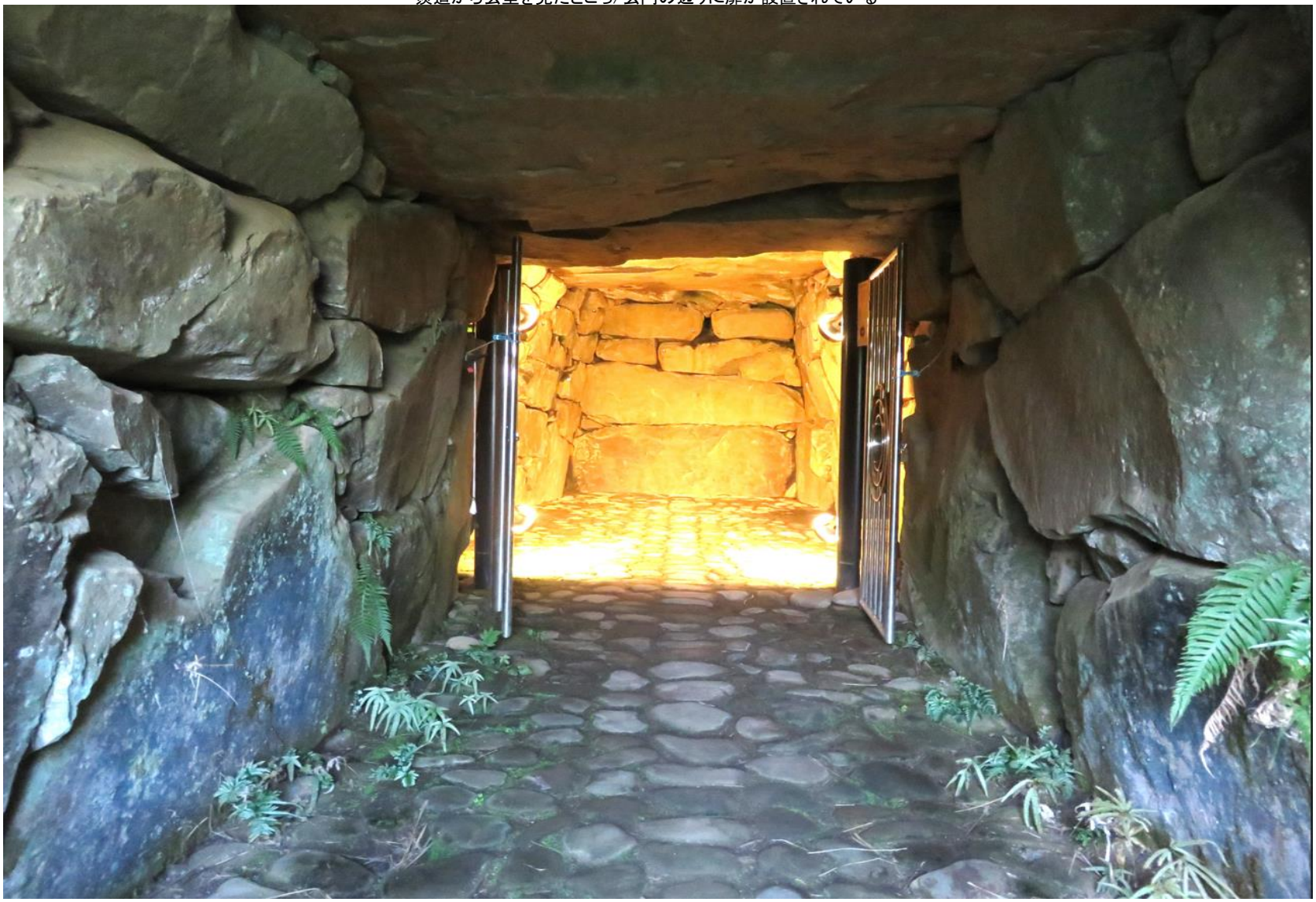
一ツ瀬川を挟んで対岸に位置する千畑古墳（前方後円墳）の横穴式石室と比較検討が行われており、両者は設計企画や築造技法など多くの点で類似することが指摘されています。

Oni-no-Iwaya Tumulus has the Kinai-style horizontal stone chamber consists of some huge rocks. The total length of the entire chamber is 12.4 meters, and the inner space of the chamber measures 4.9 meters in length, 1.75-2.45 meters in width, 2.15 meters in height. The stone chamber mainly consists of sandstone boulders. The building stone used as the base in the innermost wall of the chamber is the largest one which measures at least 2.1 meters in width, 1 meter in height. The stone chamber shares many features such as construction method or design with the one of Chibatake Tumulus which is a key-shaped tumulus located on the opposite side of the Hitotsuse River.

それでは横穴式石室内部を見てみよう！

玄室には照明が設置されていた

羨道から玄室を見たところ/玄門の辺りに扉が設置されている



天井石を見たところ

床面を見たところ/全面に河原石が敷かれ、排水溝が設けられていたのだが、現在の床面は保護のために20cm程度の盛り土を施し、実物と同じような形状の河原石を敷いて復元してあるようだ

玄室

天井石を見たところ

床面を見たところ

左側面を見たところ

同じく、右側面を見たところ

video

それでは墳丘に登ってみよう

video

墳頂から横穴式石室入口方向を見たところ

video

これはすぐ近くにある「鬼の窟古墳（206号墳）」の陪塚とされる「205号墳」/円墳

別の角度から見たところ

さて、このエリアに陵墓参考地の男挟穂塚・女挟穂塚が所在する

video

図の右が男挟穂塚(5世紀前半築造の帆立貝形古墳)、左が女挟穂塚(5世紀中頃築造の前方後円墳)

陵墓参考地ということで、宮内庁の管理下にある

video

男狭穂塚
女狭穂塚
陵墓参考地
みだりに域内に立入らぬこと
一魚鳥等を取らぬこと
一竹木等を切らぬこと
宮内庁

ここを進むと男挟穂塚があると思われるのだが・・・

アップで見たところ/左手の墳丘が女挟穂塚で、右手の墳丘は男挟穂塚か？

男狭穂塚（おさほづか）

男狭穂塚は、古来天孫ニニギノミコトの御陵ともいい伝えられ全長154.6m、後円部の径132.0m・高さ19.1mの巨大古墳であり周囲に二重の隍（ほり）もめぐらされています。築造年代は女狭穂塚よりも早い時期と推定され、明治28年、男狭穂・女狭穂両塚を含む98,700m²のこの地域は御陵墓参考地に定められ宮内庁の管轄下にあります。

「神武天皇御東遷二千六百年記念古墳祭記念碑」とある

の墳丘

この立て看板の背後は女挟穂塚

こんな塩梅/前方部の先端部分と思われる

video

そこで左手を見たところ

同じく、右手を見たところ

video

女狭穂塚（めさほづか）

女狭穂塚は、ニニギノミコトの妃・コノハナサクヤヒメの御陵ともいい伝えられ、全長176.3m、後円部の径96.1m・高さ14.6m、前方部の幅109.5m・高さ12.8mの規模を有する九州では最大の前方後円墳です。この両古墳は西都原時代の最盛期に造られたもので、築造された年代は５世紀中期ごろの時期と推定されています。

これは裏側から女挟穂塚が所在する林を見たところ/男挟穂塚はこの左手に所在する video

左手を見ると、手前に「171号墳」があった

「171号墳」/女挟穂塚の陪塚とされる方墳

video

171号墳 ●再発掘調査 平成10～12年度実施

１７１号墳は、女狭穂塚（めさほつか）の南西に位置し、その陪塚（ばいちょう）として５世紀前半に造られました。近年の調査の結果、女狭穂塚（めさほつか）には二重周溝が存在し、１７１号墳はそれに接して造られたことが明らかになりました。

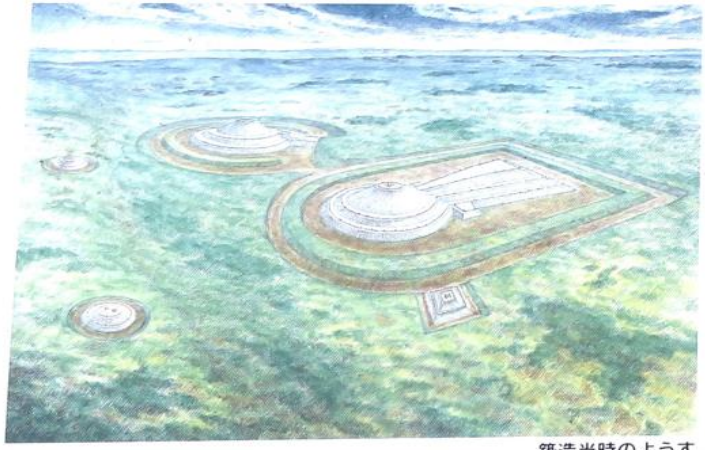
１７１号墳は西都原古墳群唯一の方墳であり、一辺約２５m、高さ約４.５mで、二段築成となっています。

墳頂平担面は円筒埴輪列が取り囲み、その内側に家形埴輪や盾形埴輪が立てられていました。また、一段目と二段目の段差をめぐるテラスにも、円筒埴輪が列をなして立てられていました。しかし古墳内部に、人を葬った跡は見られませんでした。

今回の整備に当たり、周辺地形の削平されていた部分を含め、古墳本体も復元して、築造当時の姿に近づけました。

※陪塚（ばいちょう）・・・・大型古墳に近接して存在する小古墳で、その性格が大型古墳に従属するものをいう。

築造当時のようす



築造当時のようす

墳丘の表面は川原石で覆われています。これらの石は、墳丘に対して川原石の長軸を横たえる形で、平行に積み重ねられています。

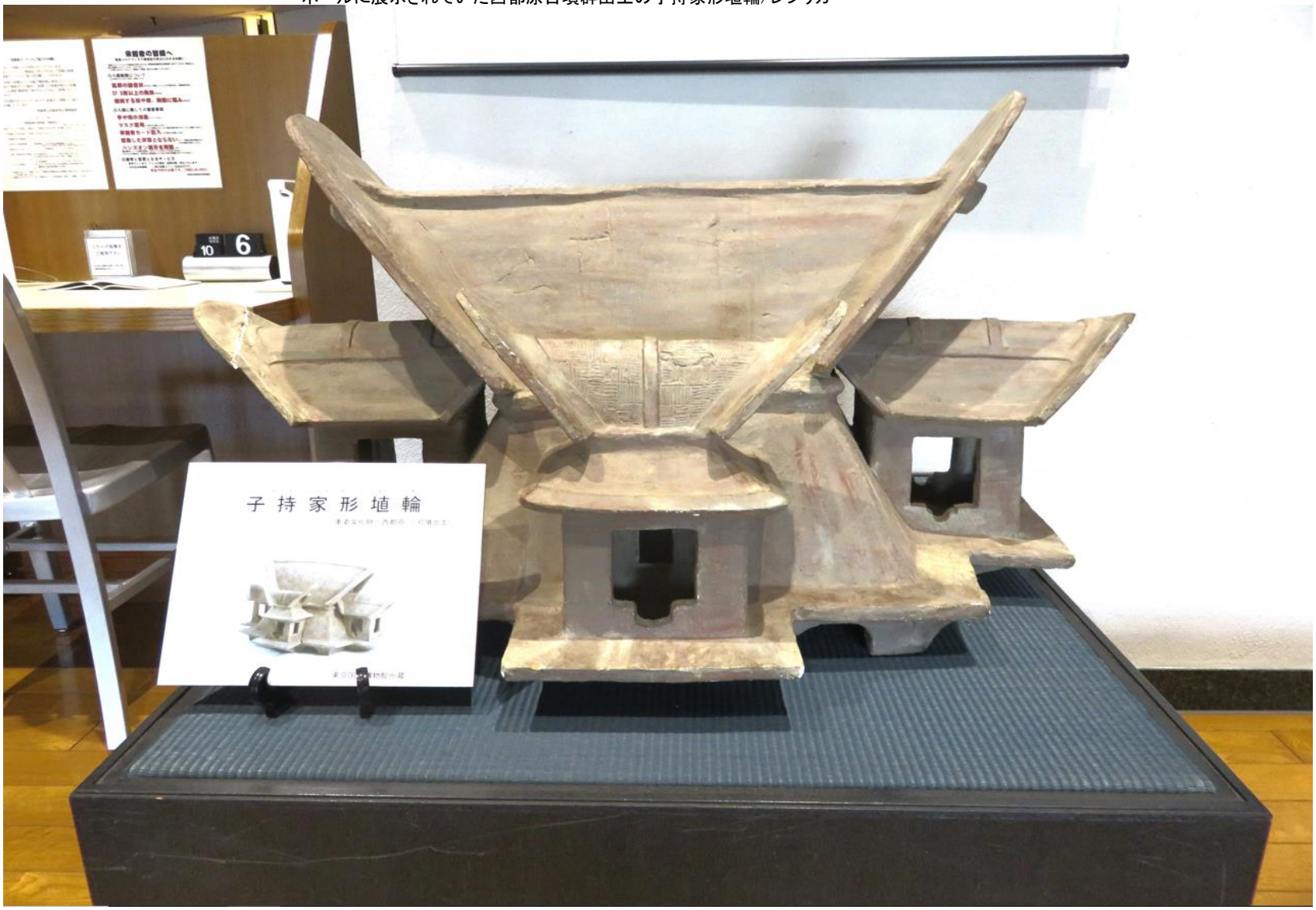
また、約１mごとに、長軸が３０～４０cmの石が垂直方向に一直線に重ねられています。これは、石を葺くときの一人分の作業区画を示したものだと言われています。

宮崎県教育委員会

さて、ここは併設されている宮崎県立西都原考古博物館

video

ホールに展示されていた西都原古墳群出土の子持家形埴輪/レプリカ



こちらが東京国立博物館に展示されている本物の子持家形埴輪

J-34661

重要文化財
Important Cultural Property

埴輪（はにわ） 子持家（こもちいえ）

宮崎県西都市 西都原古墳群出土

古墳時代・5世紀

Tomb Sculpture (*Haniwa*): House with Smaller Houses
埴轮 屋舍/하니와: 작은 집이 딸린 집

Found at Saitobaru Burial Mounds, Miyazaki
Kofun period, 5th century

家形埴輪は形象埴輪のなかでも中心的な存在です。本例は、竪穴建物とみられる主屋（おもや）の周りに4つの小さな家を付す、他に類例のないものです。小さな家の屋根の形態は、建物の前後と左右とで異なっています。複雑な構造であり、特別な建物だったのでしょう。

こちらは展示室に展示されていた船形埴輪/レプリカ

video

こちらが東京国立博物館に展示されている本物の船形埴輪

J-21498

重要文化財
Important Cultural Property

埴輪（はにわ） 船（ふね）

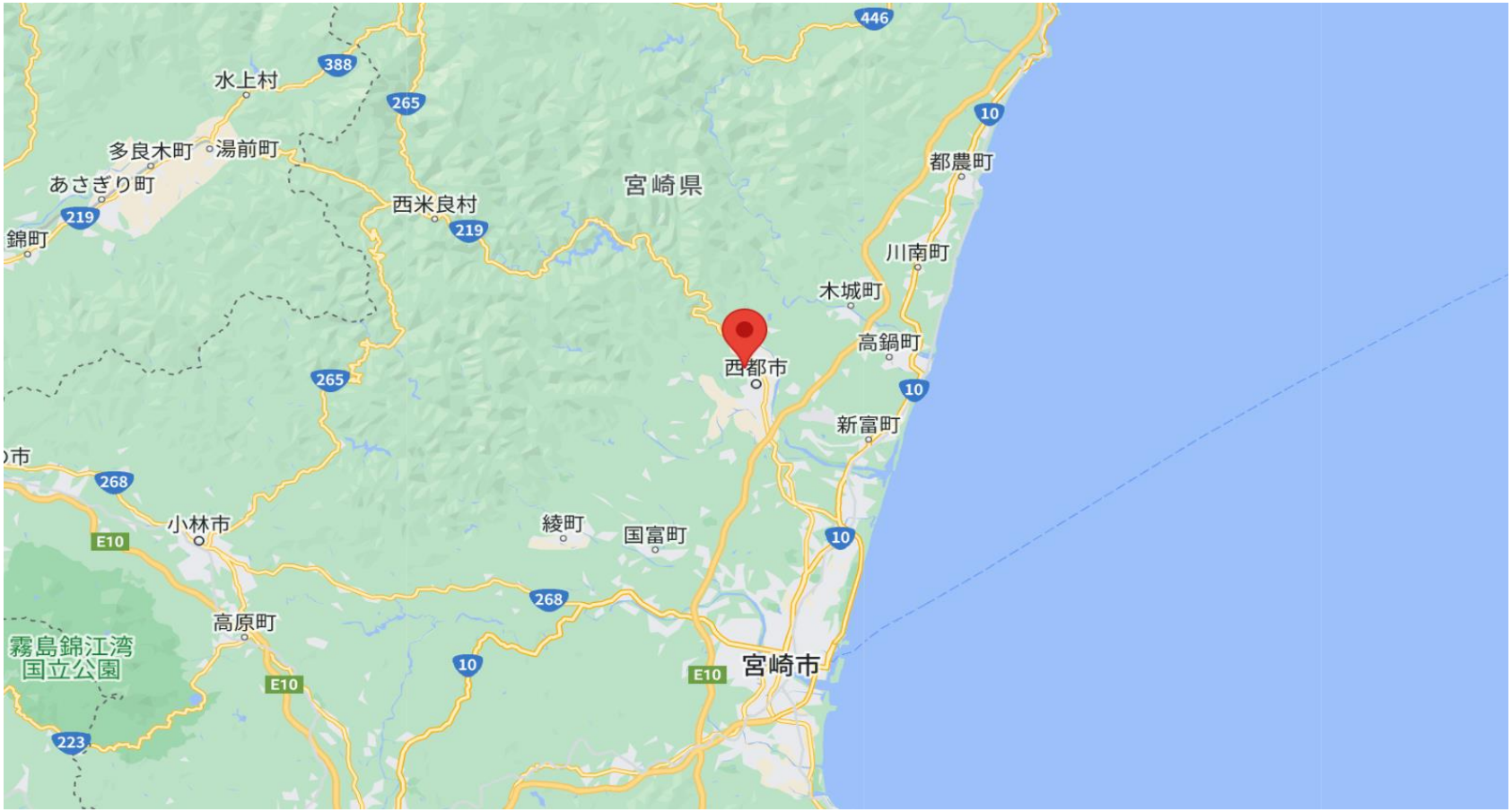
宮崎県西都市 西都原古墳群出土

古墳時代・5世紀

Tomb Sculpture (*Haniwa*): Boat
埴轮 船/하니와 배

Found at Saitobaru Burial Mounds, Miyazaki
Kofun period, 5th century

外洋を航海するための大型の準構造（じゅんこうぞう）船がモデルとみられます。舷側（げんそく）板の上にはオールで漕（こ）ぐための軸受けが各6個付きます。軸受けが傾く方向が船尾で、その反対が船首です。こうした船の埴輪は古墳の被葬者が司っていた外洋への航海を象徴しているのでしょう。


446
388
水上村
265
10
多良木町
湯前町
都農町
あさぎり町
宮崎県
西米良村
219
219
錦町
川南町
木城町
高鍋町
西都市
265
10
新富町
268
小林市
綾町
国富町
E10
10
268
高原町
霧島錦江湾
国立公園
10
E10
宮崎市
E10
223